

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 3月 10日(金)


その2 通算314号

## ◇ 彩が花を添える

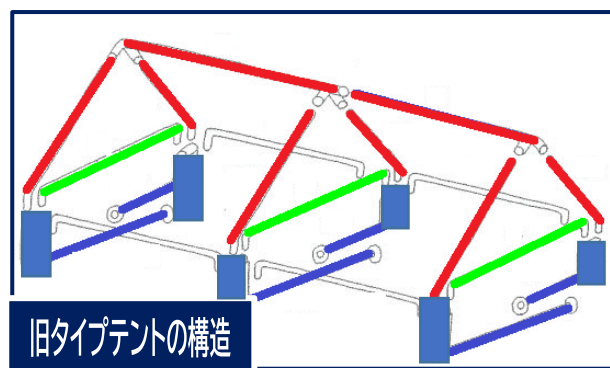
右は、見慣れた「日よけテント」の写真。  
この「支柱パイプ組立式テント(旧タイプ)」は、自分が小学校に在学中から存在していた記憶がある。そう考えると、50年以上の歴史があることになる。車で言えば、小さなマイナーチェンジを重ねているものの、大幅なモデルチェンジはしない形。言わば、一昔前の「フォルクスワーゲン・ビートル」や「ローバー・ミニクーパー」といったところだ。



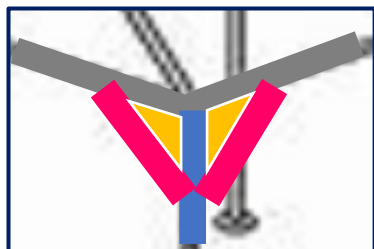
さて、長期間に渡ってモデルが変更されないのには理由がある。日よけテントに必要な「十分な強度」「倒れにくさ」「固定のし易さ」さらには、「分解・組立が可能」で「コンパクト収納」などの【機能面】が満たされている証ともいえる。ここで課題となるのがテントの「重さ」。スチール製で重さがあるがゆえ、テントの転倒防止につながる一方、重さが事故時の重大事案につながる危険をはらむ。

ここで「旧タイプ」テントの構造について、 図を用いて解説する。

右図のように、テントは「青色の脚部」、  
「白色と緑色の本体」、  
「赤色の屋根部」から成り、合計 21 本のパイプ部材をジョイント部(青色■)で組み立てる構造だ。



横揺れに対する補強は、「三角形構造」。



屋根をはじめ、支柱間に斜め部材◆を差し入れることで三角形▼構造をつくり、構造上の安定をもたらす。このように、テントは簡単かつ単純な構成であるものの、大変「理に適った」構造であると言えるのだ。

ところが、テントも<sup>へんかくき</sup>変革期を迎えている。ここ 10 年ぐらいで、とても便利な【ワンタッチ式テント】を多くの場面で見かけるようになった。この新テントの特徴は、これまで課題とされてきた「重量」の改善と、使用素材による強度の向上、そして、伸縮構造の採用で意外と面倒だった組立作業が<sup>かつあい</sup>割愛できた面だ。

つまり「いいことづくめ」で、学校現場でも急速な勢いで導入が開始されている。

とは言っても、なかなか高価な代物。<sup>しろもの</sup>おいそれと購入するわけにもいかないものだが、本校には、すでに2張の【ワンタッチ式テント】があるという好環境。

おかげで、運動会(全校体育授業参観)等大活躍。6月の勢いを増した陽差<sup>ひざ</sup>しから、子供たちをしっかりと守ってくれた。

学校創立120年を記念として寄贈していただいた同窓会、ならびに記念式典実行委員会には、感謝しかない。



実際に利用すると、その利便性を実感できる。



<sup>ほろ</sup>幌を被せて、蛇腹を伸ばせば完成。まさにワンタッチ。



さらに嬉しい知らせがある。

今度は学区社教委員会の取り計らいで、2年計画・計4張のワンタッチ式テントが利用できる体制(※所有は、常磐東学区社教委員会)を整えていただいた。

しかもテントは、学校が利用しやすいようにと、<sup>ほろ</sup>幌の色に「ひと工夫」がある。



まさに来年度以降の「学区運動会」は、【<sup>いろどり</sup>彩が大会に花を添える】。

そんな大会になること間違いなし。今から楽しみである。